

2012
Number

077

TAMA UNIVERSITY

Rapport

現代の志塾 多摩大学

Rapport (ラポール) とは、仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。
多摩大学広報紙「Rapport」は、多摩大学と多摩大学サポーターをつなぐ
コミュニケーション紙です。

発行者 多摩大学 発行日 2012年3月20日
東京都多摩市聖ヶ丘4-1-1 TEL:042-337-1111 FAX:042-337-7101
<http://www.tama.ac.jp/>



Contents

News

天津財経大学への交換留学生が帰国報告 P.02

寺島実郎監修リレー講座

2012春学期のご案内 P.03

多摩大学教授陣の書籍紹介

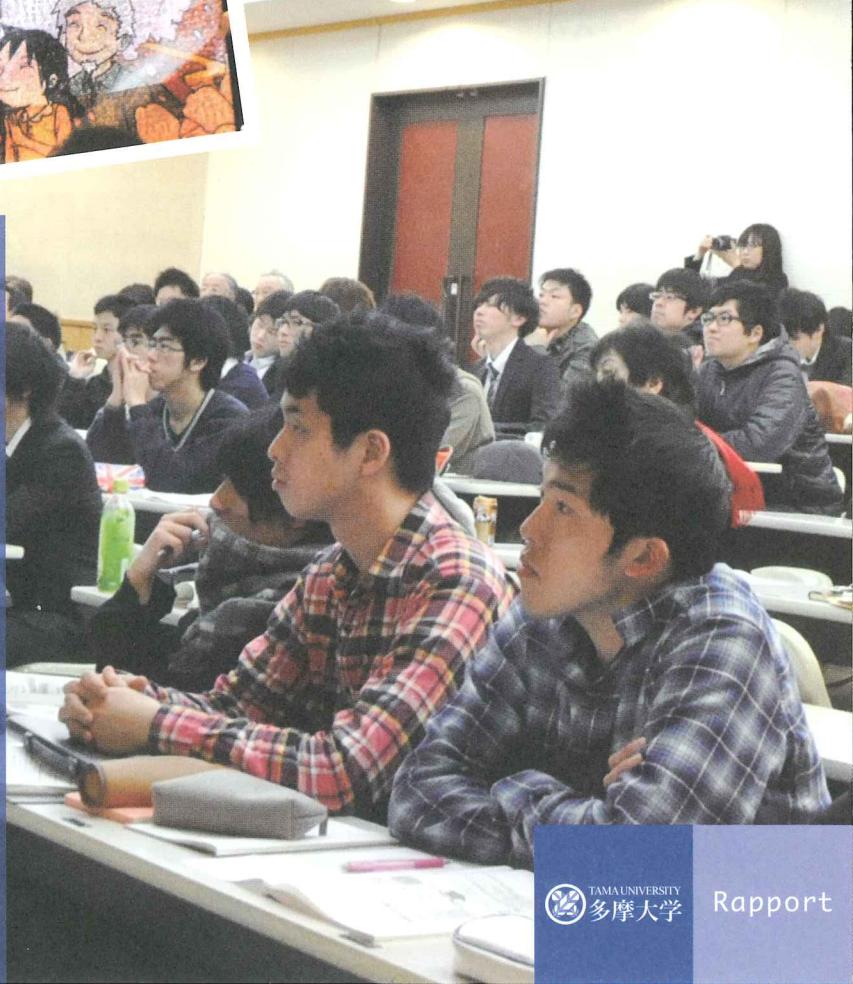
特集 東北「道の駅」大震災研究
プロジェクト報告会 P.04

地域プロジェクト発表祭開催 報告

Student Research Conference 2011 Winter 開催 P.07

多摩学

個人美術館の旅 (八王子・町田) P.08



News

松本祐一ゼミが サンリオピューロランドでイベント開催

松本EXゼミ「サンリオピューロランドの課題解決イベントの企画・運営」のゼミ生が、12月18日(日)17:00～21:00、サンリオピューロランドで大学生・留学生を対象としたイベントを実施しました。タイトルは「SANTAMA CHRISTMAS PARTY～今だからこそ考える 人ととのつながり～」。イベントは二部構成で近隣の大学生や留学生が参加し、一部では多摩センターの商業施設で交換用のプレゼントを購入してもらい、二部では交流ゲームなどを行いました。成果と課題は2月9日多摩キャンパスにて行われた「地域プロジェクト発表祭」にて報告されました。



サンタに扮してパーティの準備をするゼミ生たち
<http://www.edu.tama.ac.jp/semi/santama2011/index.html>

ロイヤルメルボルン工科大学から 留学生受け入れ

1月10日より2週間、湘南キャンパスの提携校であるオーストラリアのロイヤルメルボルン工科大学から13名の留学生が、日本語や日本文化を学ぶために引率の先生と共に来日しました。グローバルスタディーズ学部にとっては初めての試みで、まずホームステイ先を探すことから始まりました。藤沢市民の皆様、本学の学生家庭、職員の協力を得て、全員がホームステイを体験し、日本語授業や鎌倉七福神めぐり、餅つき、お茶会、旅行、日本語によるプレゼンテーションなどバラエティに富んだプログラムを修了することができました。



着物を着て日本文化を堪能する留学生たち
<http://www.tama.ac.jp/topics/news/2012/02/post-1494.html>

天津財経大学、新疆財経大学からの 交換留学生が日本語でプレゼンテーション

中国からの交換留学生が、日本語講座最終日の1月27日（金）、多摩キャンパスにて日本語によるプレゼンテーションを行いました。経営情報学部では中国の天津財経大学、新疆財経大学との交換留学生制度を実施し、留学生の皆さんは授業と共に日本語講座を受講しています。これらの成果と日本での生活や感想などを、日本語講座の講師や地域の方、教職員が見守る中で発表。一番楽しかった思い出は、留学生のサポート活動をしている多摩大生が開催した餃子パーティなどで、学生や地域の方と交流できたことと留学生は笑顔で話しました。



日本での生活や思い出を日本語で発表する留学生
<http://www.tama.ac.jp/topics/news/2012/01/post-1500.html>

出原至道ゼミの学生がフランスで 海外インターンシップ

経営情報学部4年の後木貴博さん（出原至道ゼミ）が2月3日（金）より45日間、多摩大学の提携校である ESIEA（フランス ラバール）で、学生インターンシップとして研究生活を送りました。研究テーマは、「無線 LAN を用いた携帯電話の位置測定技術」です。インターンシップ中は週1回、ゼミ担当教員の出原教授がオンラインで、研究の進捗状況の確認と研究指導、現地での様子の確認などを行い、後木さんは研究内容について質問するなど、日本とフランスを結んだゼミ活動が実施されました。



留学先からオンラインで指導を受ける後木さん
<http://www.tama.ac.jp/topics/news/2012/02/post-1498.html>

天津財経大学への交換留学生が 帰国報告

経営情報学部4年生の椎名宏貴さんは、2011年10月～2012年2月までの5ヶ月間、交換留学生として天津財経大学（中国）で留学生活を体験。2月10日（金）多摩キャンパス223教室にて、帰国プレゼンテーションを行いました。発展著しい中国経済の実態や食文化について、感じたことを客観的にまとめて報告し、その内容は大変興味深いものでした。椎名さんは、「留学生活を通して視野が広がり、日本の魅力にも改めて気付かされた。将来はさらに学びを深め、中国に活躍の場を広げたいと考えている」と語りました。



中国での留学生活を発表する椎名さん
<http://www.tama.ac.jp/topics/news/2012/02/4-8.html>

飯田教授、望月教授、中庭准教授が 匝瑳市の職員研修を実施

2月13日（月）14:00～千葉県匝瑳市役所では職員研修が行われ、経営情報学部の飯田健雄教授、望月照彦教授、中庭光彦准教授が講師を務めました。テーマは「近未来提言－匝瑳市の広域連携戦略と社会デザインを考える－」。日本の地方都市では経済の活性化・再生化が喫緊の課題となっていますが、匝瑳市という単一地方都市だけのまち起こしではなく、近隣都市との経済連携や新しい共同体の形成を視点として、近未来の匝瑳市の進むべき道を考えていくという趣旨で、太田安規匝瑳市長もご出席のなか研修が行われました。

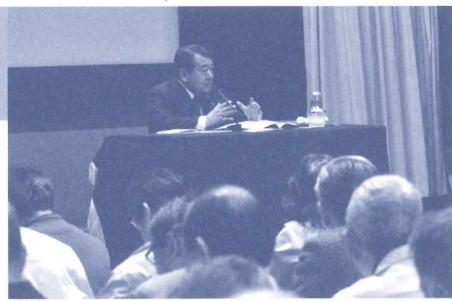


先生方の講演に熱心に聞き入る参加者たち
<http://www.tama.ac.jp/topics/news/2012/02/post-1501.html>

3.11 の試練、そして世界の構造変化 —我々はどこに向かうべきか

各界の専門家を講師として迎え、
リレー講座として日本と世界が置かれた
歴史的位相を多面的な視点から再検討し、
その今日的課題を解析するプログラムを構築する。

- 受講料：一般 12,000円(12回分)
※多摩大学卒業生・大学院修了生・大学院生・
多摩大学後援会員は特別割引受講料10,000円
- 会場：多摩大学多摩キャンパス 001教室
- 定員：300名(一般)
※多摩大生 200名同時受講
- 監修：寺島 実郎(多摩大学学長)
- 主催：多摩大学 後援：多摩信用金庫
- 申込締切日：4月3日(火)



※講義順・敬称略

第1回	4月19日	寺島 実郎	多摩大学学長、(財)日本総合研究所理事長、(株)三井物産戦略研究所会長
第2回	4月26日	福島 清彦	立教大学経済学部特任教授
第3回	5月10日	酒井 啓子	東京外国语大学大学院教授
第4回	5月17日	金 美徳	多摩大学経営情報学部教授、多摩大学大学院経営情報学研究科教授
第5回	5月24日	中村 桂子	JT生命誌研究館館長
第6回	5月31日	岩田 公雄	讀賣テレビ放送報道局特別解説委員
第7回	6月 7日	寺島 実郎	多摩大学学長、(財)日本総合研究所理事長、(株)三井物産戦略研究所会長
第8回	6月14日	長谷川榮一	東京大学公共政策大学院教授、ボストンコンサルティング・シニアアドバイザー、(株)ティー・オー・ダブリュー顧問
第9回	6月21日	広瀬 一郎	多摩大学経営情報学部教授、スポーツ総合研究所所長、スポーツマンシップ育成会(NPO申請中)代表
第10回	6月28日	十市 勉	日本エネルギー経済研究所顧問
第11回	7月 5日	北川 正恭	早稲田大学大学院公共経営研究科教授
第12回	7月12日	寺島 実郎	多摩大学学長、(財)日本総合研究所理事長、(株)三井物産戦略研究所会長

多摩大学後援会員の皆様のご参加・申込を受け付けています。

ホームページからの申込：<http://www.relay-kouza.net/>

TEL : 042-337-7185 FAX : 042-337-7101 E-mail : relay@tama.ac.jp

書籍紹介

多摩大学の学長及び教授陣の著書をご紹介します。

学長
寺島 実郎(著)



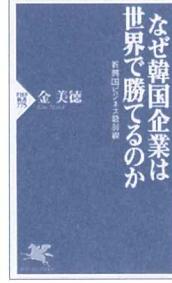
■世界を知る力 (PHP新書)

■世界を知る力 日本創生編 (PHP新書)



経営情報学部 教授
久恒 啓一(著)

■人生の道を拓く言葉 130
—偉業をなしとげた人々の「志」
(日経ビジネス人文庫)



経営情報学部 教授
金 美徳(著)

■なぜ韓国企業は世界で
勝てるのか
(PHP新書)



経営情報学部 教授
広瀬 一郎(著)

■サッカービジネスの基礎知識
—「Jリーグ」の経営戦略とマネジメント
(東邦出版)



経営情報学部 教授
樋口 裕一(著)
■文章力の鍛え方
(中経の文庫)



東北「道の駅」大震災研究プロジェクト

—東北「道の駅」の震災対応の実態と新しい役割—

【報告会開催】

<http://www.tama.ac.jp/guide/managementcenter.html#michinoeki>

多摩大学地域活性化マネジメントセンター副センター長・現地調査団団長 久恒 啓一

2011年3月11日に発生した東日本大震災からほぼ一年が経った。

この地震・津波・原発事故によって、私たちの世界観は一変した感があり、被災した東北のみならず日本全体の行方に大きく深刻な影響を与え続けている。

「道の駅」は、1993年に103駅から出発し、現在では977駅と全国展開し、車社会を生きる国民にとって欠かせない身近な存在となっている。

今回の震災にあたっては、本来の休憩機能、情報発信機能、地域連携機能を土台に、震災直後には被災者支援の拠点となっただけでなく、自衛隊・消防等の基地、物資の集積配送拠点、市場の開催場所、など、復旧・復興支援の防災的拠点としても重要な役割を演じており、評価が高まっている。

多摩大学は財団法人JKAからの資金協力を得て、救援、復旧、復興支援にあたり、東北の道の駅の果たした役割がどのようなものだったのかを明らかにし、今後果たし得る平常時と災害時の双方に適応した地域の多機能型交流拠点としての新しい役割を模索するために、一年間に亘って調査を行う機会を得た。組織的には、多摩大学地域活性化マネジメントセンターが主体となり、現地のNPO法人東北みち会議の協力を得ることができた。

そして2011年9月5日から10日まで岩手県・宮城県・福島県の3県に、教員・職員・学生の混成チームによる現地調査団を派遣し、道の駅と地方自治体を合わせて合計29の施設を訪ね、震災時の状況と対応の聞き取りを行った。

その過程で筆舌に尽くし難い困難に対処せざるを得なかった、現場を預かる駅長さん達のリーダーシップ、志の高さ、スタッフたちとつくりあげたチームワーク力、地域社会との固い信頼関係、そしてそれらが織りなす具体的で的確な問題解決力に強い感銘を受けたことを記さずにはおれない。

また、その後、現地調査の成果を基に139の全東北「道の駅」を対象としたアンケート調査を行い、先の現地調査と合わせて今後の道の駅のあり方についての提言をまとめたのが本報告書である。各位の参考になれば幸いに思う。

多摩大学としては、外部資金を得て教員・職員・学生の混成チームで現地調査を行うという大型プロジェクトとなったことが特筆すべき点である。

「現代の志塾」という教育理念と問題解決力の養成に向けたプロジェクト学習を標榜する教育機関として、合宿型の調査プロジェクトは教職員・学生双方にとって大きな教育効果もあったと判断している。

本プロジェクトに關係した皆様に改めて感謝申し上げたい。



現地本調査 参加学生のコメント

〈岩手チーム〉 久恒ゼミ 3年 三谷 明史

今回の東北「道の駅」プロジェクトに参加したことは、自分にとって非常に大きな体験となりました。この日本史上最大級の地震によって生じた変化、また津波の被害を受けた町の現状を直接見ることができたのは、今後の人生においても大きな意味を持つと思います。また、このプロジェクトに参加するまで道の駅というものを知らなかった自分にとっては、今回の調査を通して震災復興・地域活性化という二つの面から、日本の新たな可能性を感じたことも大きな収穫でした。参加できて本当に良かった。東北のみなさん、ありがとうございました。

〈宮城チーム〉 野田ゼミ 3年 日吉 藏人

震災から約半年もたっているのに瓦礫の山や壊れた家がたくさんあり、瓦礫の山は全部思い出だったのだなと思うと悲しくなりました。改めて自分が健康に生きている喜びを感じ、強く生きていかなくてはいけないという気持ちになりました。

道の駅を訪問して感じたことは、駅員さんたちが皆さん本当に立派な方ばかりだということです。自分のことよりも地域のことを考えていて、駅長さんの話話を聞くだけで人生勉強になったと思います。先生方や友達との出会いもあり、東北「道の駅」調査に参加して本当によかったと思います。

〈福島チーム〉 酒井ゼミ 3年 千葉 光樹

今回1週間にわたり福島地域一帯の道の駅を訪問し、フィールドワークや駅長及び関係者の方にインタビューを行い貴重な体験をさせて頂きました。初めて被災地を訪問し、震災のすさまじさを目の当たりにし想像以上の衝撃を受けました。駅長や関係者の方からのインタビューでは、震災のショックはあるものの震災から立ち直るべく考え、行動していることを皆さんから感じました。道の駅という特別な施設を通して震災に大いに貢献したからこそ、考え方行動できるようになったのだと思います。道の駅は現在多くの方々に様々な場として利用され、特に震災時にはその価値が改めて実感できたのだと思います。コミュニケーション・憩い・つながりなどの大切な場となり、情報共有が大いに避難・復興につながったのだと感じました。震災時に被災者がいった「あそこにいければ何かある」。この言葉こそ道の駅の大切な要素が詰まっているのだと思います。今後も継続して道の駅を通すことで、多くの人の役に立っていくことを祈っています。

平成 24 年 2 月 14 日（火）13:00～18:00、せんだいメディアテークにおいて、多摩大学〈東北「道の駅」大震災研究プロジェクト報告会〉（主催：多摩大学地域活性化マネジメントセンター／協力：特定非営利活動法人東北みち会議）が開催され、行政・企業・学生・一般など 200 名を超える方々が参加されました。

本報告会では、寺島実郎 多摩大学学長による基調講演、経営情報学部 松本祐一 准教授、酒井麻衣子准教授による現地調査報告が行われ、さらに関係者が参加したパネルディスカッションで議論し、「道の駅」が今後果たしうる、平常時と災害時の双方に適応した地域の多機能型交流拠点としての役割が提案されました。



基調講演『東北から考える日本創生への道～「道」という視点の重要性～』
多摩大学学長 寺島 実郎



〈東北「道の駅」現地調査結果報告〉
多摩大学 経営情報学部 松本 祐一 准教授（右）・酒井 麻衣子 准教授（左）



パネルディスカッション『道の駅に求められる新しい地域連携機能とは』
〈パネリスト〉写真右から、特定非営利活動法人東北みち会議 事務局次長 安藤 美樹
様・国土交通省東北地方整備局 道路部 道路情報管理官 赤川 正一様・道の駅「ひらた」
駅長 高野 哲也様・道の駅「三本木」駅長 遠藤 栄悦様・多摩大学 経営情報学部
中庭 光彦 准教授・コーディネーター 松本 祐一 准教授



報告会開催会場の「せんだいメディアテーク」

平成 23 年度 経営情報学部セミナー 多摩大学経営情報学部父母懇談会

平成 24 年 3 月 4 日（日）13:00 から多摩キャンパスにて、「平成 23 年度経営情報学部セミナー（多摩大学経営情報学部父母懇談会）」が開催されました。今回の父母懇談会はセミナー形式で、多摩大学の今後の志、多摩にゆかりのある優良企業の志を直接聞く機会として設けました。地元企業はアジアの企業と連携し、10 年前には予想もしていなかった事業を開拓をするなど大学を取り巻く企業環境は今、大きく変わろうとしています。今後、多摩大学はどのような人材を育てようとしているのか、企業は若年層にどのようなキャリアを求めているのかなどの内容が盛り込まれました。

セミナーでは、後援会長の木村和俊様、経営情報学部 諸橋正幸学部長の挨拶に続き、経営情報学部 久恒啓一教授による特別講演「現代の志塾・多摩大学の戦略～産業社会の問題解決の最前線に立つ志人材（人物）を育てるために」、参加企業 4 社によるパネルディスカッション「世界の変化に対応する企業の志・学生の志とは？」が行われました。また、セミナー終了後は会場を移して、父母の皆様と教員及びパネルディスカッション参加企業の方との交流が和やかに行われました。



多摩大の位置を示す「多摩大鳥瞰図」。久恒教授は多摩大の特色と今後を語りました。



パネルディスカッションでは企業の志、求める人材、キャリアコースなどが議論されました。
〈パネリスト〉右から、スタック電子（株）取締役・営業企画本部長 新川 雅之様、京西テクノス（株）管理本部長 安田 真人様、トランスクスコスモス（株）人事本部長 名倉 英紀様、多摩信用金庫 主任調査役 小池 冬記様、コーディネーター 多摩大学経営情報学部 中庭 光彦 准教授



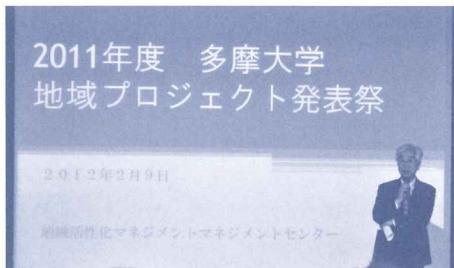
後援会長の木村和俊様（右）、後援会の皆様、教員、企業の方々が参加して交流

2011年度 地域プロジェクト発表祭開催 報告

<http://www.tama.ac.jp/guide/managementcenter/2011project.html#program>

2012年2月9日(木) 10:00~17:00 多摩キャンパス101教室にて、「2011年度地域プロジェクト発表祭」が開催されました。

多摩大学では地域活性化マネジメントセンターを中心に「プロジェクト型地域学習」を推進しており、3年目を迎えました。2011年度は多摩地域を主なフィールドとして多種多様な20のプロジェクトが展開され、その成果を地域の皆様と共有する機会として発表祭を開催しました。当日々は、プロジェクトでお世話になった地域の皆様、行政、企業やNPOの皆様にも多数ご参加いただきました。



諸橋正幸 地域活性化マネジメントセンター長



制作したポタリングマップを発表 (梅澤ホームゼミ)



イベントの成果と課題を発表 (松本プロジェクトゼミ)

阿部裕行多摩市長も多忙な中、駆けつけてくださいり、多摩市域で行われたプロジェクトの発表に大きな関心をお寄せくださいました。また、昨年度協定を締結した帝塚山大学（奈良県）経営情報学部 姜聖淑 准教授のゼミが、招待発表として参加しました。地元にある遊園地と生駒市の活性化をテーマとして発表しました。奈良という離れた地域での活動であっても、学生が地域に貢献する目的で活動した成果の発表という共通項があり、多摩大生、参加者の関心は高く、情報交換という観点からも貴重な場となりました。

会場からは、それぞれのプロジェクトの発表内容について熱心な質問や感想が投げかけられ、多摩大生、帝塚山大生は、今後のプロジェクト活動を推進するための手がかりを得ることができました。阿部多摩市長から発表祭の最後に、多摩市民を代表して多摩大生が地域活動に取り組む姿勢にお礼が述べられました。また帝塚山大学経営情報学部 日置慎治教授からは、全体にとてもレベルの高い発表であったとの評価と今後もこのような交流を通して連携を進めていけるとのご挨拶をいただきました。東京家政学院大学 地域連携コーディネータ 山岡義卓様からも発表祭の感想をいただきました。



多摩学グループの発表 (寺島インターゼミ)



LEAD 報告 (片桐プロジェクトゼミ)

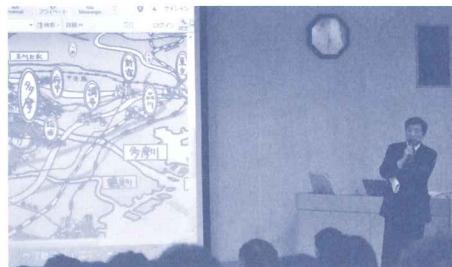


クラシックコンサートの企画から運営まで実施 (樋口ホームゼミ)

諸橋正幸 地域活性化マネジメントセンター長、久恒啓一 地域活性化マネジメント副センター長より締めくくりの挨拶があり、発表祭は盛会裏に終了しました。その後、会場を移して懇親会が行われ、地域の皆様、帝塚山大学教職員、帝塚山大生、多摩大生、多摩大学教職員が世代や立場を超えて和やかに交流し語り合いました。



招待発表 (帝塚山大学 経営情報学部 姜聖淑ゼミ生、日置慎治教授)



久恒啓一 地域活性化マネジメント副センター長



発表終了後の懇親会では学生と教員が歓談

2011年度地域プロジェクト発表祭 参加プロジェクト一覧

『多摩地域にクラシック音楽を!』 樋口裕一ホームゼミ	『多摩市ポタリングマップ制作プロジェクト』 梅澤佳子ホームゼミ	『東京にしがわ大学の授業を企画しよう』 中野未知子プロジェクトゼミ「実践的プロジェクトフェスティバル OUTPUT」	『Enjoy! Puroland again!』 齋藤T.裕美ホームゼミ	『若者たちのメッセージー未来に向けて理想となる多摩市の姿ースピーチ大会』 梅澤佳子ホームゼミ
『Let's GO-ya プロジェクトー多摩市におけるゴーヤ・グリーンカーテンの教育効果調査ー』 中庭光彦ホームゼミ	『多摩の手土産づくり支援』 久恒啓一ホームゼミ	『サンリオピューロランドの課題解決イベントの企画・運営』 松本祐一プロジェクトゼミ「集客施設のマーケティング」	『東京ヴェルディの地域活動支援』 久恒啓一ホームゼミ	『多摩うどん「ぼんぼこ」プロジェクト』 梅澤佳子ホームゼミ
『中里介山と白洲次郎から考える多摩地域』 寺島実郎インターゼミ「多摩学グループ」	『近隣交流「七輪横丁」プロジェクト』 梅澤佳子ホームゼミ	『東北「道の駅」大震災研究プロジェクト』 地域活性化マネジメントセンター	『アニメによる街づくり立川プロジェクト』 齋藤T.裕美ホームゼミ	『親と子のコーチング』 飯田健雄ホームゼミ
『多摩市防災マップの作成』 久恒啓一ホームゼミ	『みんなの菜園プロジェクト』 梅澤佳子ホームゼミ	『多摩ニュータウンコミュニティサロン創出プロジェクト』 豊ヶ丘地区 みんなでお食事・永山名店街・週末のバーゲン構想!片瀬地区プロジェクトゼミ「公民連携ビジネスプランニング」	『ドトール・プロジェクト』 酒井麻衣子ホームゼミ	『多摩市市制施行40周年記念ハッピーフォトモザイクアート』 松本祐一プロジェクトゼミ「地域プロジェクトマネジメントの手法」
【招待発表】『生駒山上遊園地の衰退と再生の可能性』帝塚山大学 経営情報学部 姜聖淑ゼミ				

Tama University Student Research Conference 2011 Winter

<http://iis.edu.tama.ac.jp/src/>

2011年12月17日(土)9:30～多摩キャンパスにて「SRC」(Student Research Conference 2011 Winter)が行われました。SRCは多摩大学経営情報学部の学生がゼミの研究成果などの発表を行う場です。

それぞれのテーマで、これまでの研究成果をパワーポイントを使用して発表しました。お互いの研究成果を確認し、刺激を受けることができる貴重な機会となりました。

(発表順に掲載)

洪 尚斗	味覚判断に及ぼす視覚との関係	大森ゼミ	二里木ジン	物語の自動作成知能	諸橋ゼミ
蓬田 貴明	FC音源についての研究	大森拓哉ゼミ	Kouma Inoue	人気なゲームの人気な理由	今泉ゼミ
野口 優	第一印象が与える効果	大森ゼミ	佐藤 嶺	パーソナル診療情報のデータベース化とその活用	中村その子ゼミ
河合 大介	卒論概要報告：日本の自動販売機の未来像～歴史、他国との比較、国民性の3つの観点から～	酒井ゼミ	金野有紀子	若者の結婚に対する意識調査	社会調査士実習 Ⅰ・Ⅱ
岩間 隆	回帰分析による日常生活の分析	大森拓哉ゼミ	山下英美夏	Personal Health Management for Smart Phone Users!	English Track
米澤 静香	チャイルドマインダーの有効活用に関する研究	杉田ゼミ	篠崎 淳士	ゲームマッチングシステムの構想 - ゲーム購入リスクの軽減 -	酒井ゼミ
平松 健太	ITサービスが出版市場に与える影響(仮)	酒井ゼミ	池田 和教	著作権意識と実行動のかい離	酒井ゼミ
杉本 秀平	音楽産業の未来(仮)	酒井ゼミ	金野有紀子	卒論概要報告：本当に人を動かす広告とは何か —広告接觸と消費者態度変容の要因探索分析—	酒井ゼミ
瀧川 進一	卒論概要報告：おまけ付き商品の戦略と消費者心理の考察	酒井ゼミ	庄司 貴博	小説・漫画原作の映画に対する評価のポイント ～一般消費者の視点からの考察～	酒井ゼミ
瀬上賢一郎	アンカリング効果について	大森ゼミ	井上 祐樹	日本における自動車用安全技術の普及のための在り方 ～ドライバーに好まれる安全技術とは～	酒井ゼミ
村山 英雄	これからのCMの在り方	酒井ゼミ	菅原 光	An idea for better customer service in takeout lunchbox shops	English Track
島倉 由高	ブライミング効果	大森拓哉ゼミ	松本 伶子	Waraji project in Bangladesh	English Track
溝口 拓	多摩大学生の、家族関係が日常生活と心身に及ぼす影響について	大森拓哉ゼミ	藤原 大輝	曲の好み表現から見た価値ポートフォリオ	諸橋ゼミ
馬部 陽平	混む店の店の研究	大森拓哉ゼミ	藤岡、洋平	K-POP 人気の理由とJ-POPの今後	諸橋ゼミ
森 沙織	単純接触効果	大森拓哉ゼミ	岸 裕也	仮想世界(SNS)と現実世界	諸橋ゼミ
土井 涼太	ストループ効果について	大森ゼミ	佐々木正隆	「エコロジーと経営効率化につながるアイデア提案」	中村その子ゼミ
矢野ゆきか	中間報告 大学生の携帯電話とパソコンの価値観調査	齋藤S裕美ゼミ	片桐 涼太	プライバシー意識調査 相手によって感じ方が違うかについて	齋藤S裕美ゼミ
白木	マジカルナンバー7±2	大森ゼミ	川田 直人	ヒットするインターネットサービス ～その要因と新サービスの提案～	中村その子ゼミ
佐藤 栄秀	東京と大阪の時間のイメージの違い	今泉ゼミ	鈴木 天生	B-1グランプリで入賞する要因	今泉ゼミ
山井 悅也	音読の効果	大森拓哉ゼミ	山根 和大	次世代の音楽とそれを取り巻く環境を予想する	今泉ゼミ
五ノ井鷹之	親子間のプライバシーについて 中間発表	齋藤S裕美ゼミ	大谷 敦	コマーシャルスペースとしてのベットボトルフィルム利用	中村その子ゼミ
梅内 耕介	音楽を聴く時の気持ちの変化について	大森拓哉ゼミ	鈴木 敬史	ポップの意義と販売戦略における可能性	中村その子ゼミ
岩間 隆	アッシュの同調	大森拓哉ゼミ	齋藤 健志	腕時計購入者の分析	諸橋ゼミ
金澤 秀美	夢診断は当たるのか	大森拓哉ゼミ	富永 隼人	心理的内部SEOへの挑戦	諸橋ゼミ
石田 将太	メールのやり取りを始めて間もない関係における打ち解けやすい内容の研究	大森拓哉ゼミ	豊島 祥太	携帯音楽ダウンロード数比較	諸橋ゼミ
佃 直輝	卒業研究「パチンコ、パチスロ産業の今後」～安心して遊べる身近な産業にするためにの一考察～	梅澤ゼミ	今井 亨	株式会社ホンダの経営分析	山原克明ゼミ
中川 健人	多摩のことづくり～蘇れ!多摩の民話～	梅澤ゼミ	山本 洋和	K-POPに関する考察 -なぜ今K-POPなのか?-	諸橋ゼミ
橋本 一樹	卒業研究 ベットとして飼われる犬猫の命一殺処分を減らすにはー	梅澤ゼミ	石黒 秀多	調査研究型地域プロジェクト：多摩市ボタリングマップ制作 プロジェクトK-II	梅澤ゼミ
佐々木 研	海外ブランドに負けないものづくり	梅澤ゼミ	戸島 史貴	七輪プロジェクト2011	梅澤ゼミ
内田 隆文	対象・非対象の関係的印象研究	大森拓哉ゼミ	山口 愛美	うつ病患者からみた日本の自殺者を減らすための一考察	杉田ゼミ
久保友加里	個人の性格による色彩心理への影響	大森拓哉ゼミ	宮下 博章	私鉄11社の経営概況の比較	山原ゼミ
関原 拓真	すべての子どもに課外学習の機会を！！	杉田ゼミ	新村 顕一	他国を食べいつぶさない里山政治と鎖国(TPP)	杉田ゼミ
野口 祥一	聞き手による印象の違い	大森拓哉ゼミ	小笠原成幸	東北応援大作戦	中村その子ゼミ
角田 聖也	視覚と聴覚による問題解答への影響	大森拓哉ゼミ	大熊 啓朗	土を踏もう～グリーン・ツーリズムのあるライフスタイル～	梅澤ゼミ
石山 健人	経済教育の正しいあり方	杉田ゼミ	望月 涼	携帯電話のプライバシー	齋藤S裕美ゼミ
中川 恵里	カリギュラ効果	大森ゼミ	北村 大輔	youtube等の動画配信サイトに関する意識調査	齋藤S裕美ゼミ
依藤 健司	蒐集に関する研究	大森拓哉ゼミ	堀井 祐樹	親世代と子世代のプライバシーの違いの意識調査	齋藤S裕美ゼミ
伊藤 駿	インターネットの匿名性と人間のモラル	杉田ゼミ	西澤 知弥	食べる調味料～ヒットの要因と新たなる商品開発～	中村その子ゼミ
後木 貴博	wifiとgpsを使った精密な位置情報の取得	出原ゼミ	真島 明誉	多摩市魅力新発見ツアーハン	梅澤ゼミ
勝俣 啓太	Androidアプリの開発	田中EXゼミ	櫻井 宏樹	健康睡眠教育の提案～「健やか人生教育」のススメ～	杉田ゼミ
白崎 明人	学内情報ポータルサイトの構築と運営	出原ゼミ	加藤 拓哉	情報教育を考える	教職課程 (梅澤ゼミ)
高林 数馬	検索ワードと訪問サイトが導き出す専門性	出原ゼミ	五十嵐大喜	THE FUTURE OF TAMACITY ～あなたの伝えたいものは何ですか～	梅澤ゼミ
飯田 香織	滝が与えるイメージ分析	大森拓哉ゼミ	坂本幸太郎	事業支援型地域プロジェクト： 多摩うどん「ぼんぼこ」プロジェクト	梅澤ゼミ
西井 裕介	Androidアプリケーション開発 ～形態素解析を用いた定型詩文投稿専用Twitterクライアント～	出原ゼミ	田渕 義浩	子どもの遊びに方にに関する一考察 ～スポーツが持つ社会性要素に着目して～	杉田ゼミ
窪田 隼人	データの取り方	今泉ゼミ	長原 康至	地域プロジェクトみんなの菜園プロジェクト1	梅澤ゼミ
上原 真帆	草食系男子について	今泉ゼミ	大石 展久	地域プロジェクトみんなの菜園プロジェクト2：	梅澤ゼミ
小池 賢太	アニメが月9を食う	今泉ゼミ	浅田 暢一	ベルブ永山屋上緑化プロジェクト	梅澤ゼミ
中田 直	人の性格と時間知覚の関係性について	大森拓哉ゼミ	中川 美幸	みんなの菜園プロジェクトー諏訪小学校ー	梅澤ゼミ
雨宮 康記	インドにおけるスキとタタの動向	今泉ゼミ	中込 大貴	ペット政策に関する一考察 ～ペット算用～	杉田ゼミ
入谷 仁	コンピュータによる文章の理解	諸橋ゼミ	宇都宮ゆう	ペットの殺処分を減らすための一提案 ～ペットの殺処分について知ってもらう～(展示)	杉田ゼミ
小柳 祐介	日本語テキストの感情解析	諸橋ゼミ			
樋浦 聖貴	ネットワーク分析によるピニオンリーダーの識別	今泉ゼミ			
渡邊 瞬	体感時間と色によって見える	大森拓哉ゼミ			
杉山 哲久	任天堂	諸橋ゼミ			
伊藤 誠志	コーディネートプログラム	諸橋ゼミ			
広部裕次郎	トヨタ	諸橋ゼミ			
小林 佑輔	知られざる回転寿司	今泉ゼミ			



“多摩”人物紀行——⑦

多摩学
007

村内美術館入口ホール（左上）と展示室（左下）。西山美術館外観（右上）と展示室（右下）



村内美術館
東京都八王子市左入町 787
村内ファニチャーアクセス 3 階
☎ 042-691-6301
開館時間 10:30 ~ 17:30 (入館締切 17:00)
休館日: 水曜 ※祝日の場合はその翌日
入館料: 一般 600 円 / 大学生: 400 円
交通: JR 八王子駅北口、駅前郵便局 (東急スクエア 1 階) 前より無料シャトルバスで約 15 分。
<http://www.murauchi.net/museum/>

西山美術館
東京都町田市野津田町 1000 番地
☎ 042-708-2480
開館時間 11:00 ~ 17:00
休館日: 月曜・火曜 (祝日・振替休日は開館)
入館料: 1,200 円
交通: 多摩センター、聖蹟桜ヶ丘、永山、各駅から、鶴川駅行きバスで岩子山下車、徒歩 13 分
<http://www.2480.jp/museum/>

〈個人美術館の旅〉

村内美術館 (八王子市) と 西山美術館 (町田市)

多摩を車で走っていると、意外なところで個人美術館に出逢う。「家具は村内、八王子」と親しまれている企業を一代で隆盛させた村内道昌氏がつくった大型家具店の一角にある美術館もそのうちの一つだ。

「日本一のバルビゾン派の美術館」というが、確かにミレー (1814-1875 年)、コロー、クールベの 3 人の巨匠を始めとした秀作 (ミレーの「落穂拾い」、「種をまく人」。コローの「夜明け」等) が並んでいるのは壯觀だ。

この立派な美術館の開館は 1982 年というから、今年でちょうど 30 年になる。

館長の村内道昌さんは 1930 年生まれなので今年 82 歳で、まだ現役の経営者でもある。

1964 年にスイスの世界一の家具専門店フィスターを見て、34 歳で「日本のフィスターになる!」という志を立てる。それから 5 年後に村内ホームセンターをオープンし、「ティーカップからロールスロイスまで」のテーマパークのような店を目指して今日を築いている。

41 歳、三多摩初の本格画廊「ギャラリーむらうち」を開設。50 歳頃にパリのモロー美術館を見て感銘を受けて、52 歳で待望の美術館を開館する。65 歳、美術館新館が開館。バルビゾン派の絵画は、ベートーベンの交響曲第 6 番「田園」が似合うと村内さんが述べているとおり、この名曲が静かに館内を流れている。

白洲次郎と正子の住んでいた町田の武相莊からの帰り道で、道を間違えて走っていたら、ある個人美術館が目に入った。江戸中期の武家風、商家屋敷の自宅の隣接している美術館である。これがとんでもないしろものだった。

Information

2012 年度多摩大学経営情報学部後援会
イベント予定
2012 年 5 月 総会
9 月 後援会向けイベント
2013 年 3 月 後援会向けイベント
それぞれの会の詳細は郵送にてご案内いたします。



Rapport

Number.077

発行 多摩大学
東京都多摩市聖ヶ丘 4-1-1
TEL:042-337-1111 FAX:042-337-7101
印刷・編集 株式会社 インフォテック
発行日 2012 年 3 月 20 日

<http://www.tama.ac.jp/>